

今日からできる 『社会貢献』

家族づくりの出会い
を導く

第4回

NTTデータ経営研究所
村橋 保春

◎緑の難しい時代

年末から年始にかけて、人々は恋人や家族を意識する。クリスマスイブのデートの相手を熱心に探し求め、新年には初詣や親戚の集まりで改めて家族の温もりを感じる。

昭和の高度成長期のはじめごろまでは、家族単位でなければ暮らしていく時代であった。家族は居間で卓袱台を囲み、朝も夕もいっしょに食事し、夜は親子が川の字で眠った。電話やテレビも一家に一台しかなく、見たい番組や長電話が家族のちよつとした争いの種であった。生活が豊かになるにつれて、子どもたちには「個」室が与えられ、テレビや電話などの電化製品が「個」電化し、外食や小パックの物菜などにより「個」食が進んだ。家族単位で生活することがなくなり、個人単位でなんら不自由なく活動することができるようになった。

家族単位で暮らしていた時代は、しっかりとした地域社会があった。地域の人々はそれぞれの家族の構成を知っており、冠婚葬

祭は地域で取り仕切ることが多かった。年頃の息子や娘のいる家族には、何かと縁談を持ち込む気のいいおせっかいなご近所さんがあり、親もそうしたご近所さんに相談したものである。

高度成長期は企業社会の成長期ともいえ、地域から企業に社会的基盤が移行していった時期である。企業は多くの若者を積極的に雇用する。若者が仕事に打ち込むためにはしっかりとした家庭を築いてもらわねばならず、企業は伴侶を見つけ出す役割を担うこととなる。職場には多くの未婚の男女が働き、その働きぶりを見ながらお互いを見初め結婚に至る。社内結婚が多く、結婚式が社内会議のようだと揶揄された時期である。

経済環境や社会構造が変化し、企業経営に厳しい舵取りが求められるようになった。企業の雇用意欲も低調に推移し、勤務形態も多様となり、企業という働き場は結婚相手を見つけ出す場ではなくなってきた。

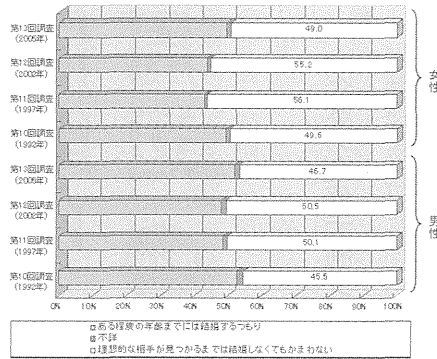
現代は、社会の中心が地域から

企業に移り、再び地域に戻る過渡期であると考ええる。地域社会が家族単位が中心となって形成され、ともに協同しあつて暮らす時代が整うまでの期間は、人々は結婚相手を自ら探さなければならぬ。婚活（結婚活動）が各地で行われている。ご縁を探すにも難しい時代となった。

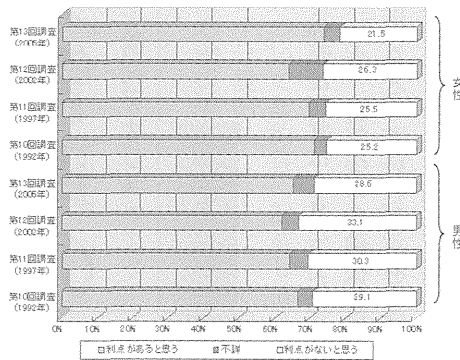
◎結婚観の抱える問題

結婚観も変化している。恋愛に積極的でない人たちを「草食男性」、「草食女性」と称してマスクミに取り上げられるように、恋人や伴侶を強く求めない人たちも増えてきている。第13回出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）から、「婚姻意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方」を取りまとめると次ページのとおりになる。第12回調査では「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と答える男性も過半数となり、結婚に対する積極性が薄らいできていたが、第13回調査では男女とも「ある程度の年

未婚者の結婚に対する考え方



未婚者の結婚の利点に対する考え方



年齢までは結婚するつもり」と答え
る比率が増加し、若干結婚への積
極性が高まっている。
同様に「未婚者の結婚の利点に
対する考え方」を取りまとめると
左のとおりとなる。第12回調査ま
で結婚を利点と思わないとする回
答は男女とも調査回数に増加し
ており、直近の調査では男性は約
3人に1人、女性は4人に1人以
上有利点はないと捉えていた。第
13回調査では調査結果の傾向が反
転し、利点があるとする回答が増
え、若干積極性が増えてきてい
る。

理想の相手が現れるまでは積極
的に結婚をせず、結婚そのものに
も利点を感じていない人々の傾向
は増加から減少へと転じている。
マスコミやネット上で婚活や無縁
社会をテーマに多く議論されるこ
とから、結婚や家族に対する意識
が高まったことも原因と考えられ
る。しかしながら、結婚に対する
意義を見出せない割合も多く、生
涯未婚率(50歳までに結婚しなかつ
た人の割合)は2010年の同研究
所調べでは男性が約16%、女性が
約7%である。近い将来、生涯未
婚率が20〜30%に至るとする分析

会を増やすことで定着率を高め、
流出を抑えることができるという
考え方から、各地で公的機関やN
POなどが積極的に出会いの場を
つくる動きが起きている。
若者をターゲットとした出会い
の場の活動は、スポーツ大会やス
タジオイベントなどが実行されて
いる。スポーツは躍動感を打ち出
すことができ、スタジオでは音楽
などを通じて情操の豊かさを訴え
ることができる。もつとも得意な

分野を披露することでお互いが引
き付けあう機会となる。年齢を重
ねた単身者には語りあう酒宴と
いった場面が設けられることもあ
る。人生の機微に通じた方々は、
ありのままの語らいからお互いの
理解を深めていく。
出会いの場づくりの活動は、着
実に成果を積み重ねている。地域
社会の再生において重要な役割を
果たしている。活動がよりふさわ
しい成果をあげるためには、二つ
の要素の充実が望まれる。一つ目
は情報を伝えたい人たちに的確に
情報を発信すること。二つ目は活
動の情報を信頼を持って相手が受
信すること。この二つの要素を同
時に満たすことはなかなか難しい。
信用組合に期待する貢献はここ
にある。信用組合がサポートする
情報発信は地域においてしっかり
と暮らしている人たちに信頼を
持つて受け入れられる。ぜひ地元
の活動を確かめてみてもらいた
い。地域社会の再生のためにもせ
ひ力をお貸し願えれば何よりあり
がたいことである。

出会いの場を手伝う

地域社会が元気になるために
は、多くの人たちがその地域で暮
らすことが重要である。単身者よ
り夫婦のほうが地域に定着する可
能性は高く、また家族が増えるこ
とも期待できる。地域には恋人や
結婚相手を見出す出会いの場が少
なく、これを理由に地域を飛び出
す人たちもいる。男女が出会う機

会を増やすこと
流出を抑えること
考え方から、各地
POなどが積極的
つくる動きが起
若者をターゲット
の場の活動は、ス
タジオイベント
いる。スポーツは
すことができ、ス
などを通じて情
ることができる。も
た